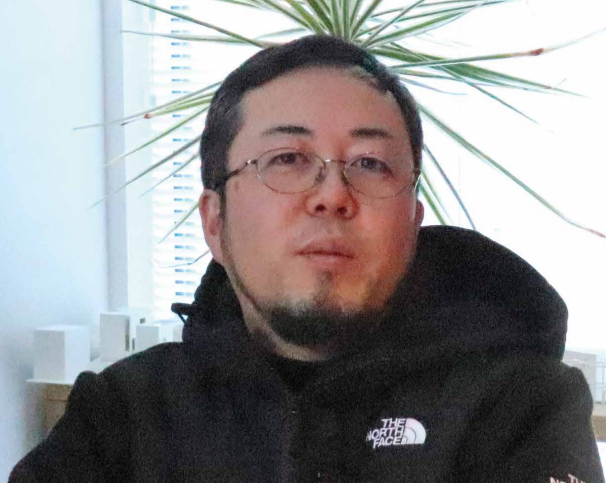


キクザワ(恵庭市)  
専務取締役 菊澤章太郎氏



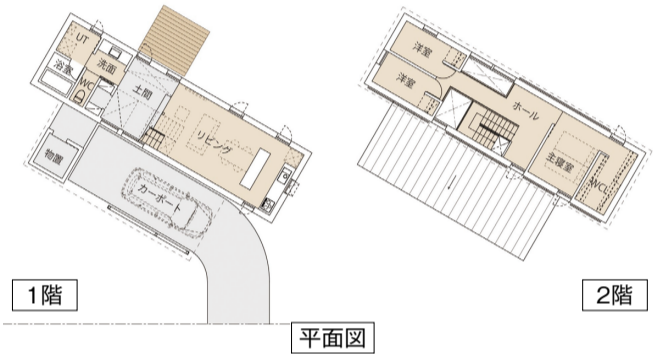
工務店×建築家



弘田亨一設計事務所(札幌市)  
弘田亨一氏



外観



1階

2階

平面図

# 第8回 ゼロカーボン ヴィレッジ対談

## 南北軸に奥行きのある住まい

地域工務店と建築家が協働グループを組んで北方型住宅ZEROの住まいづくりを行う空知管内南幌町の「みどり野ゼロカーボンヴィレッジ」。現在11グループの基本プランが公開され、オーナーを募集 중이다。工務店と建築家がどのような考えでこのプロジェクトに参加し、どのように協働していったのか、対談形式で内幕を聞くシリーズ。第8回はキクザワ(恵庭市)専務取締役の菊澤章太郎氏と弘田亨一設計事務所(札幌市)の弘田亨一氏。これまで協働の機会がなかった両者が、新たな組み合わせが新しい価値を生み出すのは本プロジェクトの醍醐味のひとつといえる。新チームが目指したものは。

今回のプロジェクトが初の協働となる両者が、プランより先に決めたのは建築費だという。断熱性能や太陽光発電設備などを盛り込んだうえで空間的にも成立する家を、現実的なコストで目指した。

今後のゼロカーボン住宅の普及まで視野に入れたコンパクトでありながら開放的なプランは、工務店と設計事務所がお互いを尊重した中から生まれた。

絵に描いた餅にしない  
菊澤 プランそのものに関して、こちらから要望したいものは出していないんです。

弘田 そうですね。すごく信頼していただいて。菊澤専務との打合せお互いに一番気を使ってポイントにしていたのは、建築コストについてです。建築費をどこにかく3000万円台に抑えて、最終的なユーザーの負担が、助成金なども含めて4000万円未満になるあたりを狙っていています。そこがお互い一致しています。

菊澤 そつですね。  
弘田 ゼロカーボン住宅のような取組みは、いいものだけじゃあやっぱり無理な費用がかかるんだとユーザーに思わせてしまったら社会的には損失です。そうじゃない、予算

的にも決して無理のない範囲で実現できることを考えましよう。

細長い形のメリット  
弘田 コストのことを踏まえて、建物は15坪総2階の30坪でまとめた。最初から考えています。そのうえで、細長い形は基本的に梁は壁から壁にかけられるので、室内に立つ構造的な柱は少なくなります。間仕切りを作らない、ワンルーム的な空間を実現しやすい。そうすると、多様な層に対して柔軟にプランのアレンジができる。ここは意識的にやっています。

手間などを考えると、枚数を増やした方が逆にメリットが出てくるということ。

菊澤 外注だとキロワットあたりいくらという料金体系が多いみたいですが、うちはソーラー関係は完全に内製化できています。自社設計、自社施工、自社施工でやるので、何枚載せても設置費用にはほとんど差が出ないんです。

Win-winの関係  
菊澤 私たちは自社設計・施工がメインですが、自社の中で進めているとどうしても凝り固まってしまうというか、断熱・気密性能やお施主様の要望にどう応えるかに重点を置きがちになるんです。間違いないし当然のことではあるんですが、これからの時代は、それを前提としてその上にさらに新たな価値を提供できることが大切になってくると思っています。

取組みを広げる  
菊澤 ここからが本番ですが、もう少し問い合わせが来てほしいですね。

弘田 南幌町ゼロカーボンヴィレッジそのものが広く知られるようになれば、共感してくれる方や興味を持ってくれる方は一定数いると思うんです。現状はそこまで情報が届いていない。

菊澤 弊社でも自社ホームページ等で積極的に告知していくことを考えています。

弘田 実は最初に提案した時はもうちょっとパネルの枚数が少なかったんです。でも大工さんの

設計事務所さんとお話させていたと、もっと広い視野というか、立地の周辺環境や気候風土を含めたストーリーだったり、いろいろな角度からのアプローチをされているなと感じました。そういったソフトの部分を吸収できたらと思っています。逆に、ハードの部分、施工技術や蓄積されたノウハウはできるだけオープンに話させていたいです。

弘田 僕らが草の根的に営業するというのももちろんありますが、やっぱり道も含めてみんなで積極的に発信していかないとダメですね。